

【1年（読むこと）】

いろんなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくろう（「どうぶつの 赤ちゃん」）
指導者 緒方 傑（熊本市立桜木小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

学びの土台

これまで：問いや答えなど大事な言葉を捉えて、説明の順序に気をつけながら読む
これから：比べながら読むことで情報と情報の関係を捉え、重要な語や文を選び出すことができる

単元

学習課題

「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読み、いろんなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくろう。

指導事項

文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと C読むこと（1）ウ

思考操作

「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読む

言語活動

『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくってみんなで読み合う

<立ち止まって振り返る場>

はかせ日記で、今日の発見（学びやつながり）やびっくり・気になるポイントを書き溜め、次時の課題設定や「びっくりずかんづくり」に生かせるようにする。

<考えを表出し比較する場>

「ライオンとしまうまの赤ちゃんでは、どちらの方が強いか」の問いに、ロイノートの色カードを使って自分の立場を示すことで、子ども同士の思考のずれを可視化し本文を基に比較しながら考えを交流できるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

比較の視点ごとに板書を構造化することで、考えの根拠となる本文の言葉を明らかにして理由づけを行い吟味できるようにする。その際、子どもたちの生活経験や身近なものとの比較を促したり実際に演じたりすることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

本時

本単元で目指す子どもの姿

比べながら読むことで情報と情報の結び付きやその違いに目を向け、新たな発見や驚きがあることに気づき、また、他者と交流する中でお互いの考え方や視点の違いを楽しみながら理解を深めていく子ども。

第1学年2組 国語科学習指導案

指導者 熊本市立桜木小学校 緒方 傑

1 単元名 いろんなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくろう
「どうぶつの赤ちゃん」(光村図書1年)

2 学習課題 「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読み、いろんなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくろう。

[指導事項] 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができるようにする。

C読むこと(1)ウ

[思考操作] 「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読む。

[言語活動] 『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくってみんなで読み合う。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・ライオンとしましま、カンガルーの赤ちゃんという対照的な事例を比較することで、動物の赤ちゃんの様子の違いが分かりやすい。
- ・冒頭で二つの問い(「生まれたばかりの様子」「大きくなっていく様子」)が示され、その問いに答えるかたちでそれぞれの動物の事例が説明されており、問いと答えの関係に子どもも気づきやすい文章構造である。

以上の特徴から、事例を比較して読むことで比べている観点や文章構造に気づきながら、動物の赤ちゃんの様々な違いに驚き、他の動物についても知りたいと追求したくなる教材であると言える。それぞれが思った驚きや疑問の違いを共有していくなかで対話が生まれていくことが期待される。そのような学びを生み出すために、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかんづくり』という言語活動を核にした単元を構想する。

<児童観>

子どもたちは、これまで1年「さとうとしお」「どうやってみをまもるのかな」「いろいろなふね」で問いや答えなど大事な言葉を捉えて、説明の順序に気をつけながら読むことを経験している。

そのような学習を通して、読んで大事な言葉を見つけたり内容の大体を捉えたりすることは、ほとんどの子どもができるようになってきている。しかし、事例を比べながら読み、情報と情報の関係について考えられる子どもはまだ少ない。

<視点について>

[視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては、既習教材の「どうやってみをまもるのかな」で教師が作成したクイズや言語活動モデルを提示し、様々な動物の赤ちゃんを比べて違いや驚きを見つけてながら図鑑を作っていくことを共有していく。既習事項やそれぞれの読書生活を想起しながら、これまでの学びと本単元での学びがどのようにつながっているかを自覚できるようにしていく。さらに、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくるために必要な視点や考え方について子ども同士で話し合わせながら、上記のような学習課題を設定していく。

第二次においては、毎時間授業の最後に「はかせ日記」を書き、自らの学習を振り返る場を設定する。図鑑の書き手として、今日の発見(学びやつながり)やびっくり・気になるポイントを書き溜め、次時の課題設定や「びっくりずかんづくり」に生かせるようにする。また、その振り返りを共有する中で、それぞれの考え方の良さを問うたり、教師が価値づけたりすることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。

[視点2] 共に学び続けるための工夫

動物の赤ちゃんの様子を捉える際「AとBではどちらが～か?」と問い、ロイロノートの色カードを使って自分の立場を示させる。子ども同士の思考のずれから違いを比べたり、「〇の方が～。だって…」等本文の言葉を基に自分の考えを語ったりすることで、互いの考えの妥当性を検討していく場を設定する。

特に、比較の視点ごとに板書を構造化することで、考えの根拠となる本文の言葉を明らかにして理由づけを行い吟味できるようにする。その際、子どもたちの生活経験や身近なものとの比較を促したり実際に演じたりすることで、そうした比較検討の場で働かせた「言葉による見方・考え方」を価値づけ、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

4 単元の見目標

- ◎ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 (知・技) (2) ア
- 読書に親しみ、いろいろな本があることを理解することができる。 (知・技) (3) エ
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 C読 (1) ア
- ◎ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 C読 (1) ウ
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 C読 (1) カ
- 学習の見通しをもち、文章内容を比べながら粘り強く読むことで、本から得たことを友達に知らせようとする。 (学・人)

5 指導と評価の計画 (10時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○ どうぶつクイズを基に単元の見通しをもつ。	・ 指導者作成のクイズをもとに、「どうぶつずかん」を提示して言語活動のイメージをもてるようにする。	
<p>〈学習課題〉「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読み、いろいろなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくろう。</p>				
		○ 教材文を読み内容の大体を捉え、初めて知ったことやもっと知りたいことを書く。	・ 指導者作成の「学びの山」を活用して学習計画を立てることで、毎時間単元の見通しを持ちながら学ぶことができるようにする。	思 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 [学びの山]
二	2 3	○ ライオンと人間の赤ちゃんを比べながら読む。	・ ライオンと人間の赤ちゃんの共通点や相違点を出し合い、比べている観点や文章構造に気づくことができるようにする。	知 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 [シート]
	4 5 本時	○ ライオンとしまうまの赤ちゃんを比べながら読む。	・ 「生まれたばかりの赤ちゃんでは、どちらの方が強いか」と問い、ロイノートでそれぞれの立場や思考のずれを可視化する。 ・ 「～の方が強い」という意見に対して問い返すことで、本文を根拠に比較できるようにする。 ・ 生活経験や身近なものとの比較を促し、びっくりずかんにつながる驚きや疑問を価値づけ、一人一人納得解を生み出せるようにする。	思 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 [シート]
	6 7	○ カンガルーの赤ちゃんをライオンとしまうまの赤ちゃんと比べながら読む。	・ 「生まれたばかりの赤ちゃんでは、どちらの方が甘えん坊か」と問い、比べている観点を基に本文を根拠にした比較を促す。 ・ これまでの学習の振り返りやびっくりポイントを見直すことで、比べて読むよさや自己の読みの変容を自覚できるようにする。	主 文章内容を比べながら粘り強く読むことで、学習課題に沿って考えをまとめている。 [シート・振り返り]
三	8 9	○ 動物の赤ちゃんについて調べ、必要な情報を書き抜いてまとめる。	・ シートを基に、比べている観点を明確にして調べ学習に取り組むよう指導する。	知 読書に親しみ、いろいろな本があることを理解している。 [シート]
	10	○ 『びっくりずかん』を読み合い、身に付けた力を振り返る。	・ 「～と比べて…」等、友達と読み合うなかで、共通点や相違点を見つけるように促す。	

6 本時の学習（5／10）

（1）目標

「ライオンとしまの赤ちゃんでは、どちらの方が強いか」その理由について話し合うことを通して、それぞれの動物の赤ちゃんの様子を比べながら読むことができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
7	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○「学びの山」や「はかせ日記」を基に学習を振り返り、本時では何を比べながら読むのか見通しを持てるようにする。 ○「赤ちゃんでは、ライオンとしまのどちらが強いか」と問い、子どもの思考のずれから違いを比べるという本時の課題を設定する。	学びの山
ライオンとしまの赤ちゃんでは、どちらの方が強いのだろう。			
8 20	2 二つの事例を音読し、内容の大体を捉える。 3 ライオンとしまの赤ちゃんはどちらが強いか話し合う。 (1)個人で考える。 (2)全体で交流する。	○ライオンとしまの赤ちゃんはどちらが強いのかと視点を持って音読するよう促す。 <u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</u> ○「ライオンとしまの赤ちゃんでは、どちらの方が強いか」の問いに、ロイロノートの色カードを使って自分の立場を示すことで、子ども同士の思考のずれを可視化し本文を基に比較しながら互いの考えの妥当性を検討していくことができるようにする。 ○本文の比べている観点を基に理由づけしている子どもの発言を価値づけ、複数の視点から多角的に検討することができるようにする。 <u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u> ○比較の視点ごとに板書を構造化することで、考えの根拠となる本文の言葉を明らかにして理由づけを行い、吟味できるようにする。その際、子どもたちの生活経験や身近なものとの比較を促したり実際に演じさせたりすることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。	教科書 挿絵 ロイロノート ワークシート
10	4 本時の学習を振り返り、はかせ日記を書く。	○びっくりずかんの書き手として「はかせ日記」を書くことで、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』づくりへ見通しを持ちながら学習の振り返りができるようにする。 ◆比べている観点を基に、それぞれの動物の赤ちゃんの違いを捉えている。〔発言・ワークシート〕 <u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</u> ○はかせ日記で、今日の発見（学びやつながり）やびっくり・気になるポイントを書き溜め、次時の課題設定や「びっくりずかんづくり」に生かせるようにする。	ワークシート